

Accuphase

INTEGRATED STEREO AMPLIFIER

インテグレートッド・ステレオアンプ

E-560

取扱説明書



ご使用前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きかえにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

5年間の品質保証と保証書

本機の品質保証は5年間です。付属の「お客様カード」に必要事項を記入の上、必ず(なるべく10日以内に)ご返送ください。「お客様カード」と引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

- ※「お客様カード」のご返送や「品質保証書」の発行について、詳しくは29ページをご参照ください。
- ※「品質保証書」はサービスサポート時に必要となります。保証書がない場合には、保証内修理をお断りする場合がありますので大切に保管をしてください。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、お求めの当社製品取扱店または当社品質保証部へ、直ちにご連絡ください。

尚、保証は日本国内のみ適用されます。

The Accuphase warranty is valid only in Japan.



マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。



警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。



注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

付属品を確認します

- | | |
|--------------------------|------------------------------|
| ● 取扱説明書(本書) …………… 1冊 | ● 目隠しシール …………… 1枚 |
| ● 安全上のご注意 …………… 1冊 | ● リモート・コマンダー RC-200 …………… 1個 |
| ● お客様情報の取扱いについて …………… 1枚 | ● 単4乾電池 …………… 2個 |
| ● お客様カード …………… 1枚 | ● AC電源コード(2m) …………… 1本 |

目次

付属品を確認します	表紙裏頁
1. ⚠ 警告 安全上必ずお守りください / ⚠ 注意	2
⚠ 注意	3
2. 各部の名前	4
フロントパネル, リアパネル	4
ディスプレイ部, リモート・コマンダー RC-200	5
3. 接続図	6
4. 各部の動作説明	7~12
5. ご使用方法	13~19
CDプレーヤー(アナログ入力)の演奏	13
チューナーで放送を聴く場合	13
レコーダーで録音・再生をする場合	14
外部プリアンプによる演奏	15
バイワイヤリング方式の接続例	16
バイアンプ方式の接続例	17
DG-48を接続して演奏	18, 19
6. オプション・ボード	20~23
オプション・ボードの使用方法	
[CDなどをデジタル入力で演奏	20
[アナログ・ディスク(AD)の演奏	21, 22
オプション・ボードの種類	
[ライン入力ボード LINE-10	22
[デジタル入力ボード DAC-20	22
[アナログ・ディスク入力ボード AD-20	22
オプション・ボードの取り付け方法	23
7. オーディオ・ケーブル(オプション)	23
8. リモート・コントロール	24
使用法 / 電池について	24
9. 保証特性	25
10. 特性グラフ	26
11. ブロック・ダイアグラム	27
12. 故障かな?と思われるときは	28
13. アフターサービスについて	29

1. 警告 安全上必ずお守りください

ご使用前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

■電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

- AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

■電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

- 付属の電源コード以外は絶対に使用しない。
- ぬれた手で電源プラグを絶対に触らない。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、本機の下敷きにしない。
- 電源コードが傷んだら、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

■密閉されたラック等には絶対に設置しない。通風が悪いと機器の温度が上り、火災や故障の原因となります。

■放熱のため製品の周辺は他の機器や壁等から充分間隔(15cm以上)をとる。

■機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)、新聞紙、テーブルクロスなどを置かない。

■火災又は感電を防止するために、雨が降る場所又は湿気の多い場所では絶対使用しない。

■トップ・プレート(天板)やボトム・プレート(底板)は絶対にはずさない。内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

■脚の交換は危険ですから行わない。取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因になります。

■次の場合には本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。安全を確認後、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

- 内部に水や薬品などの液体がかかった場合。
- 内部に異物(燃えやすい物やヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。
- 故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
- 落としたり、破損した場合。

※電源コードをコンセントから抜かないと、電源スイッチをOFFにただけでは、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。

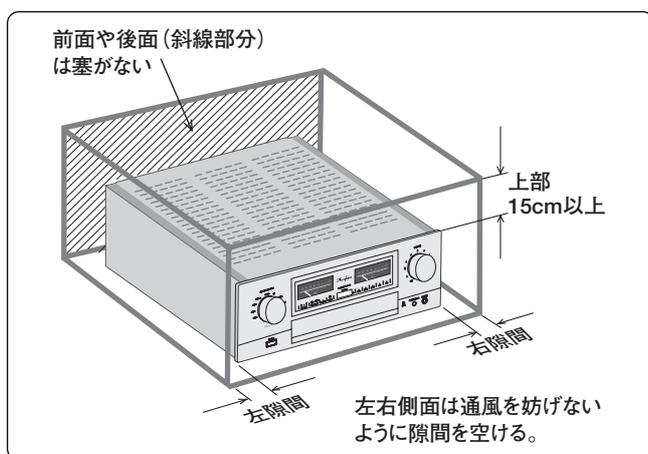
※万一の場合、電源コードをコンセントから容易に外せるように、コードの引き回しやコンセント周りの環境を整えてください。

! 注意

■ラック等に設置する場合は、周囲の隙間を十分確保する。

本機のパワーアンプ部はA級動作のため、無信号時でもかなりの発熱があります。放熱は、自然対流の空冷方式を採用していますので、トッププレートに触れると熱く感じます。このため、上下の通気孔をふさいだり、周囲の通風を妨げると故障の原因となります。

特にラック等に設置する場合は、次の図を参照して、製品左右や上面の隙間を十分確保し、周囲の通風を妨げないようにして、前・後面を密閉したラックは使用しないでください。



■次の場所には設置しない。故障や火災の原因となることがあります。

- 通風が悪く、湿気やほこりの多い場所
- 直射日光の当たるところ
- 暖房器具の近く
- 振動や傾斜のある不安定な場所

■「EXT PRE」ボタンは演奏中にはON/OFFしない。切り替える時は必ずボリュームを下げる。

「EXT PRE」ボタンはプリ/パワー部を分離するボタンです。

- 通常使用(ボタンOFF状態)でONにすると…
「POWER IN」端子に信号がなければ音は途切れます。
- DG-48接続時などの演奏中(ボタンON状態)でOFFにすると…
音量が急に変わることがあります。

※「POWER IN」端子に、コードの抜き差しをするときは必ず電源をOFFにする。

■スピーカーコード、入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切る。

- RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬(ー)側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となることがあります。
- スピーカーコードの接続が不完全で、コードが外れて本体シャーシや入・出力端子に触れると、アンプの故障やショック・ノイズの原因となることがあります。

■長期間使用しないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜く。

■AC電源コードの接続。

本機は消費電力が大きいので、十分に余裕がある室内のコンセントから直接電源を取るようしてください。

■電源スイッチはプリアンプのボリュームを下げたから切る。

■オプションボードの増設。

- オプション・ボードを抜き差しする場合は、必ず電源を切る。
- オプション・ボード(DAC-20等)での演奏中に、光ファイバーや同軸ケーブルを外すとノイズの原因となる場合があります。
- 増設したオプションボードでレコードプレーヤーなどを操作するときは、必ず本機のボリュームを下げる。
特に、カートリッジを上げたり、下げたりするときは、ボリュームを下げないとスピーカーを破損する原因となります。

■電源スイッチのOFF直後、10秒以内に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

■入・出力端子などに接点保護剤などを絶対に使用しない。樹脂部が経年変化で破損して感電や故障の原因となることがあります。

使用上の注意

■高効率スピーカーをご使用の場合、ボリュームを回転するときやバランス調整を行うときに、『電流スイッチの切替動作音』が聞こえる場合があります。この動作音は異常ではありません。

メモ

E-560は、ボリューム・コントロールにAAVA(Accuphase Analog Vari-gain Amplifier)を搭載しています。AAVAは、従来の抵抗体による音量調整とは全く異なり、16段階に重み付けされた音楽信号を電流スイッチ回路で切り替え、それによって音楽信号の大きさを変える、画期的なボリューム・コントロール方式です。

実際の動作は19 VOLUMEノブを回して音量位置を設定、電流スイッチのON/OFFによって増幅度(ゲイン)を決定します。

■クリッピング・レベルは50W(8Ω)以上。

本機のパワーアンプ部はA級動作で、出力は30W(8Ω)ですが、音楽信号などをクリッピングから救うため、クリッピング・レベルを50W(8Ω)以上に設定しています。小入力用のスピーカーをご使用の場合には、音量に注意してください。

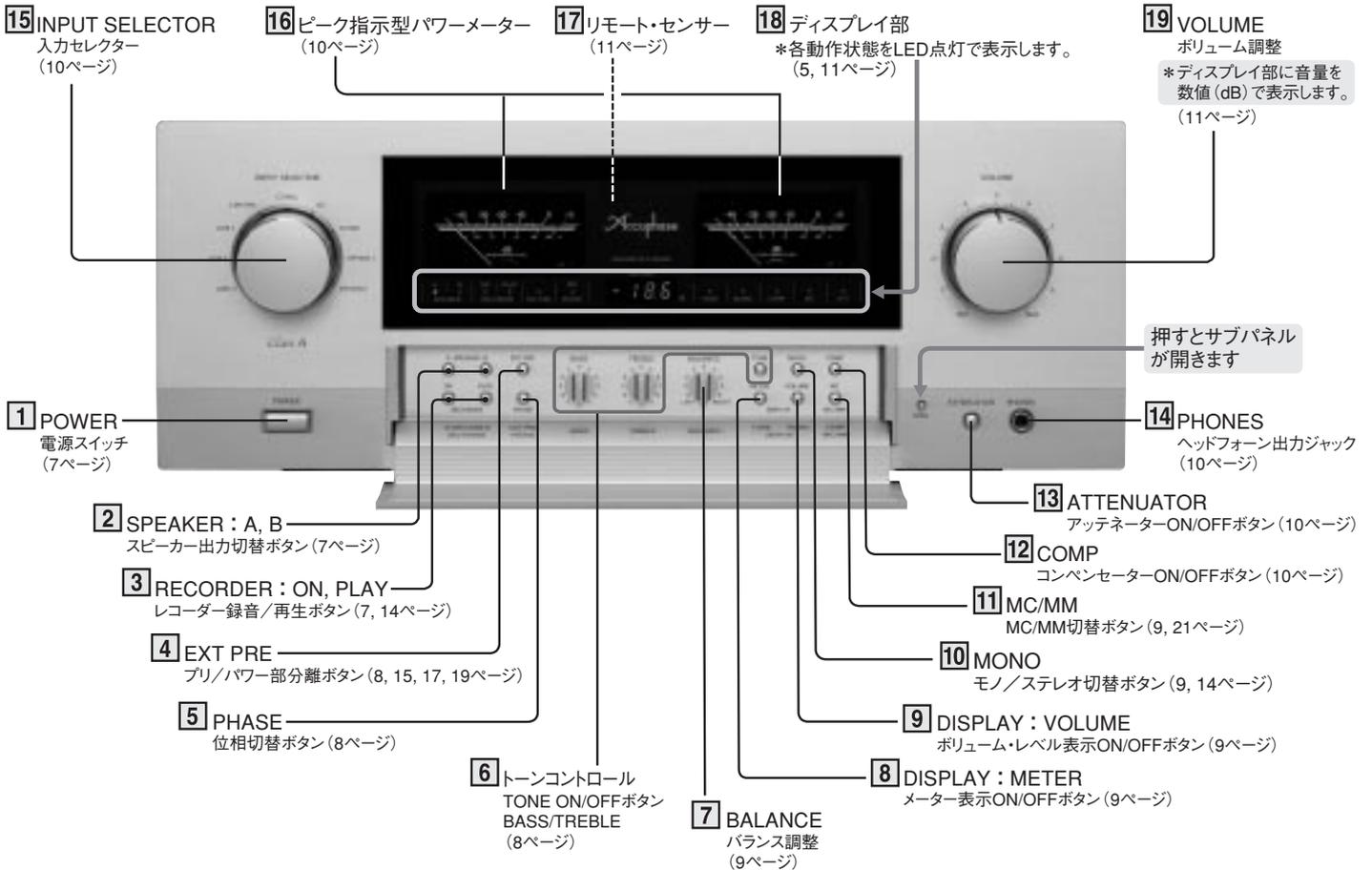
お手入れ

- お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー系の液体は、表面を傷めますので使わないでください。

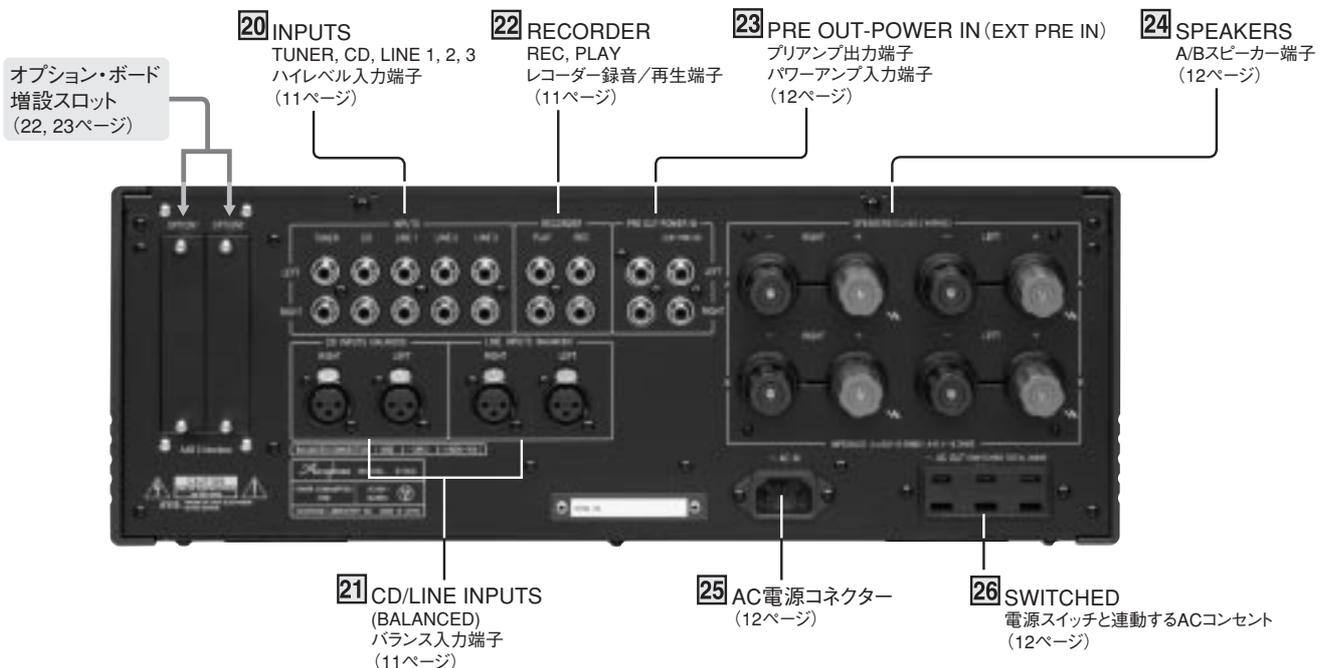
2. 各部の名前

詳しい説明は、各項目()内のページを参照してください。

フロントパネル(前面)



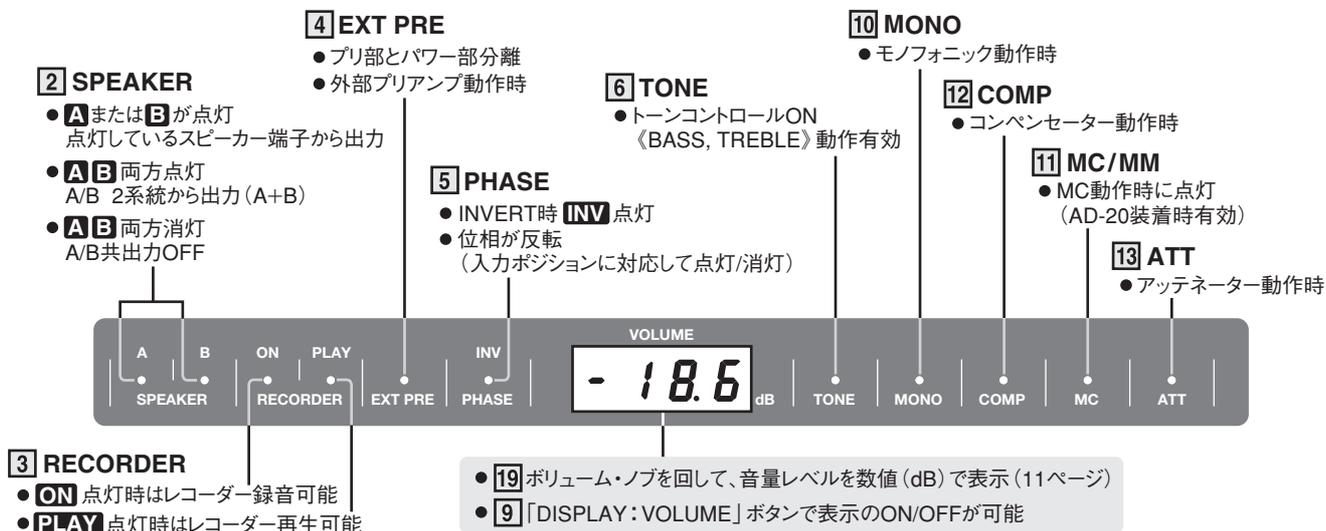
リアパネル(後面)



18 ディスプレイ部

*イラストは説明用ですので、文字等は実際の表示と異なります。

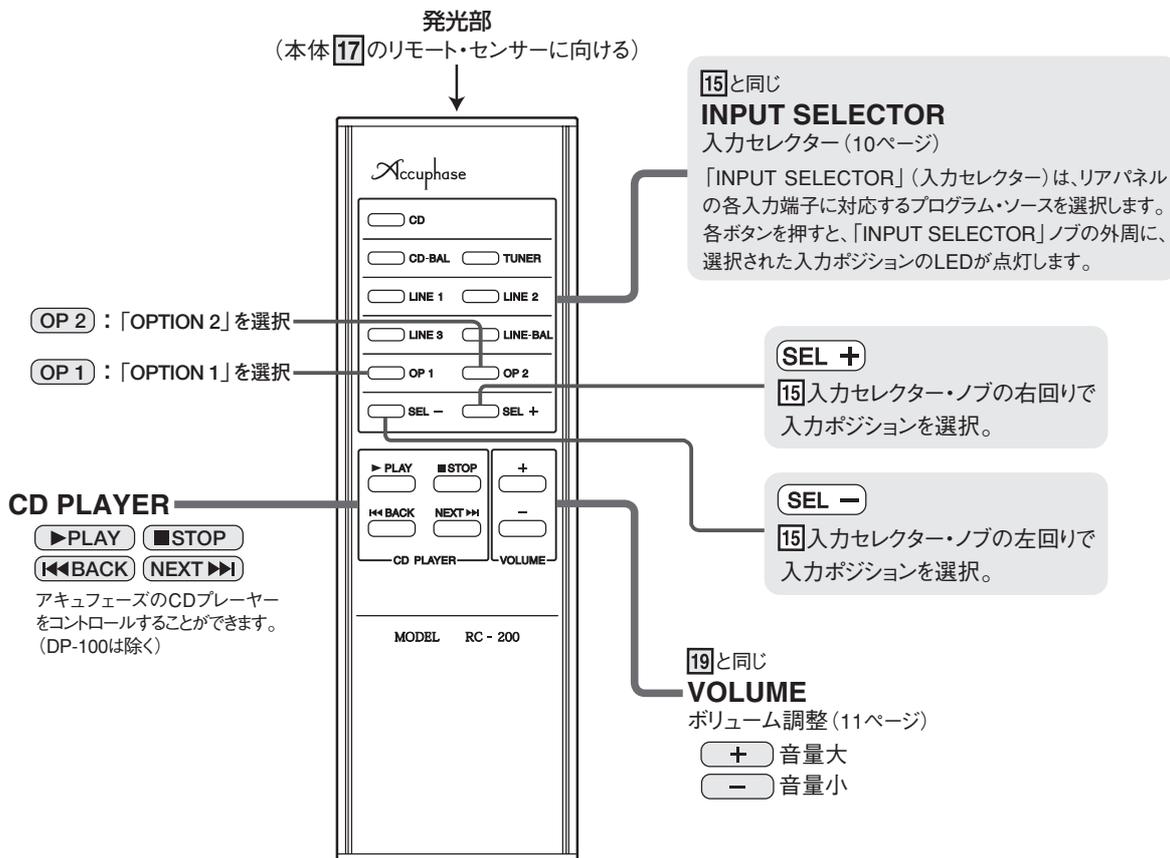
各スイッチやボタンで選択した動作状態を **LEDの点灯** により表示します。



リモート・コマンダー RC-200

*使用方法や電池交換などは24ページを参照。

本機に付属しているリモート・コマンダー RC-200を使うと、離れた所から各機能をコントロールすることができます。



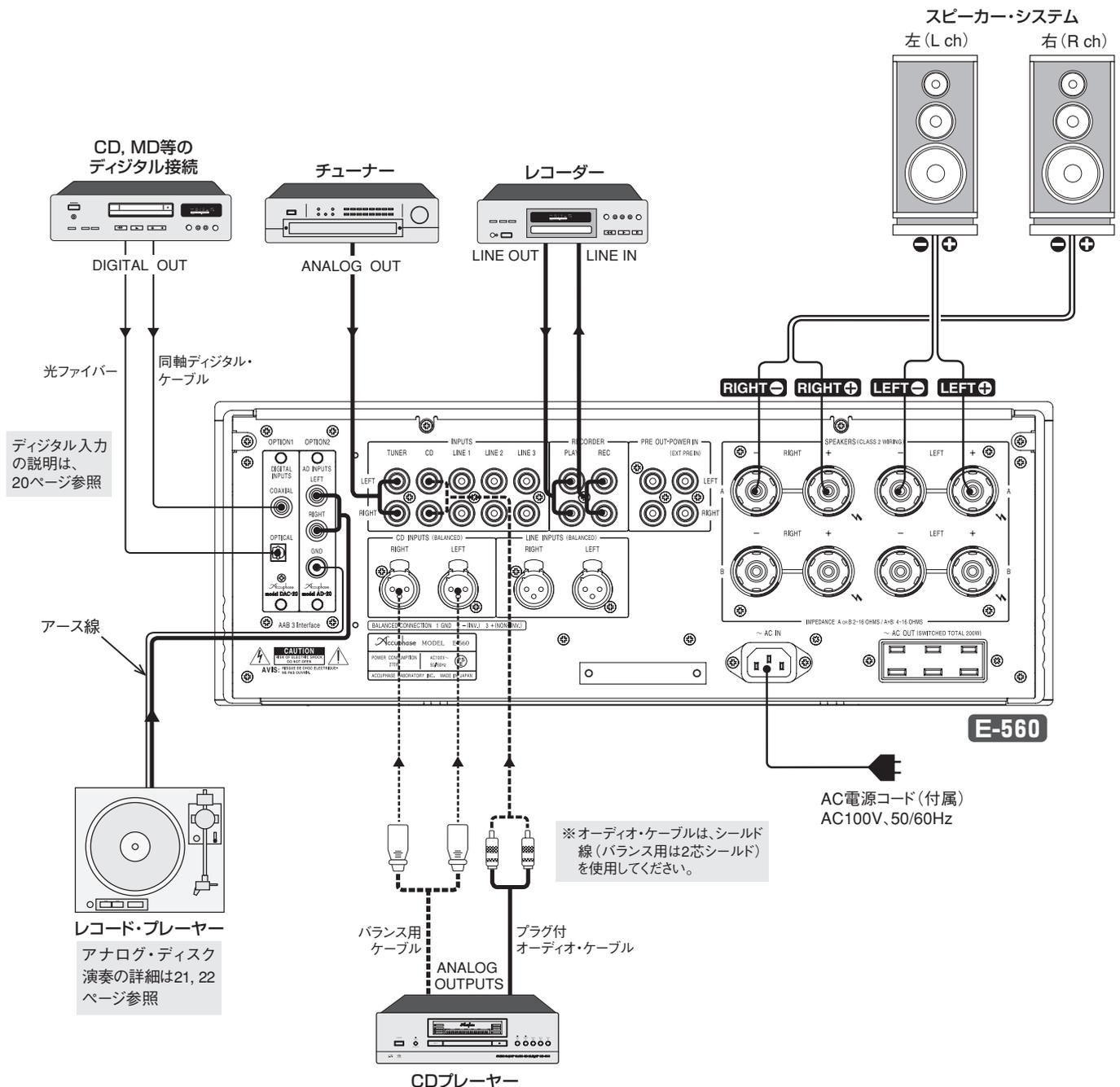
3. 接続図

注意：接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

- 注意**
- DAC-20とデジタル機器との接続は、同軸デジタル・ケーブルまたは光ファイバーを使用してください。
 - アナログ入・出力の接続は、オーディオ・ケーブルを使用しLEFT(左)、RIGHT(右)を正しくつないでください。
 - 同一機器同士で、バランス用とアンバランス用の両ケーブルを同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。
 - 本機のパワーアンプはA級動作のため、かなりの発熱があります。放熱は自然対流の空冷方式で行いますので、通風を妨げないように設置してください。

イラストはオプション(別売)を増設した場合の接続例(オプションの種類は22ページ参照)

- OPTION 1: デジタル入力ボード [DAC-20]
- OPTION 2: アナログ・ディスク入力ボード [AD-20]



4. 各部の動作説明

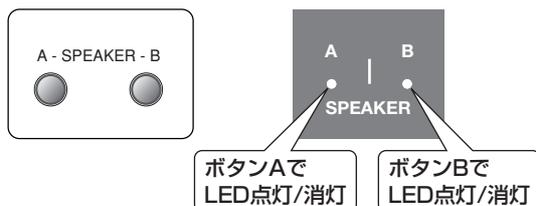
1 POWER — 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで約5秒間は、ミュート回路が作動しますので出力はありません。

- 電源スイッチのOFF直後、10秒以内に再びONしないでください。

2 SPEAKER : A, B — スピーカー出力切替ボタン

スピーカー端子A、Bに2系統のスピーカーを接続することができ、A、BボタンをON/OFFしてスピーカーの接続を選択します。



AまたはB系統のスピーカーの選択をします

- ボタンAを押す : A LED点灯、Aスピーカーの出力ON
- 再びAを押す : A LED消灯、Aスピーカーの出力OFF
- ボタンBを押す : B LED点灯、Bスピーカーの出力ON
- 再びBを押す : B LED消灯、Bスピーカーの出力OFF

- ① AまたはB LEDが点灯している場合
——点灯しているスピーカーの出力ON
スピーカー端子A、Bどちらか1系統を選択します。

- ② A B 両LED点灯の場合
——A/B両スピーカーの出力ON(A+B)
2系統のスピーカーを同時に鳴らすことができます。この場合は、インピーダンス4Ω以上のスピーカーを接続してください。A/B端子それぞれから、スピーカーの低音用/中・高音用端子と接続するバイワイヤリングの場合にも、このポジションにします。(16ページ参照)

- ③ A B 両LED消灯の場合
——A/B両スピーカーの出力OFF
ヘッドフォンだけで聴く場合や、スピーカーから音を出さない時に選択します。

3 RECORDER : ON, PLAY — レコーダー録音/再生ボタン

RECORDER端子にレコーダーを接続して、レコーダーでの録音や再生時に使用します。

※詳しくは14ページ参照。

※DG-48との接続にも使用できます。(18ページ参照)

レコーダーで録音

「RECORDER ON」ボタン



- 押して“REC ON” : 「ON」LED点灯

入力セレクターで選択されたプログラムソースを演奏すると同時に、レコーダー録音用“REC”端子に信号が出力され、レコーダーで録音が可能になります。

- 再び押すと“REC OFF” : 「ON」LED消灯

録音しない場合は再び押してOFFにします。

レコーダーの再生

「RECORDER PLAY」ボタン



- 押して“PLAY” : 「PLAY」LED点灯

レコーダー出力を再生する場合には、「RECORDER PLAY」ボタンを押します。

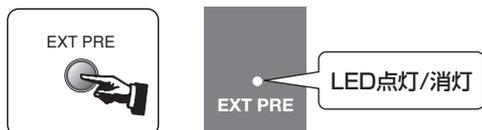
- 再び押すと“OFF” : 「PLAY」LED消灯

レコーダーで再生をしない場合は、再び押してOFFにします。入力セレクターで選択するプログラムソースを演奏します。

4 EXT PRE — プリ/パワー部分離ボタン

プリアンプ部とパワーアンプ部を分離、それぞれ独立したプリアンプ/パワーアンプとして活用することができます。

(15, 17, 19ページ参照)



- 押してON : 「EXT PRE」LED点灯
プリアンプ部とパワーアンプ部が分離
- 再び押してOFF : 「EXT PRE」LED消灯
分離しない通常の使用状態

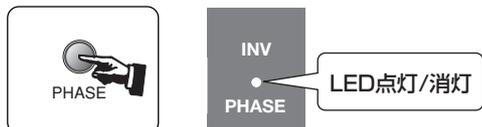
注意

演奏中はこのボタンをON/OFFしない。切り替えるときは必ずボリュームを下げる。

5 PHASE — 位相切替ボタン

出力信号の位相を切り替えます。

通常同一アンプ内では、出力信号と入力信号は同相ですが、このボタンを押すと位相が反転(180°)して、出力信号は入力信号と逆相になります。



- 押して“INVERT”(逆相) : 「INV」LED点灯
- 再び押すと同相 : 「INV」LED消灯

PHASEボタンを押す : 「INV」LED点灯

■アンバランス接続時

位相が反転して、出力信号は入力信号と逆相になります。

■バランス接続時

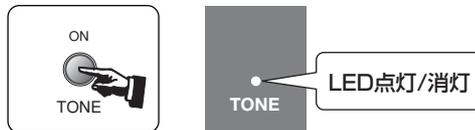
INVERT (逆相) 時、バランス入力コネクター②番と③番の極性は、次のように変わります。CDプレーヤーなどの接続側機器の極性と合うように設定してください。

- | | | |
|---|---|---|
| <p>〈同相「INV」LED消灯〉</p> <p>① : グラウンド</p> <p>② : インバート (-)</p> <p>③ : ノン・インバート (+)</p> | ⇒ | <p>〈逆相「INV」LED点灯〉</p> <p>グラウンド</p> <p>ノン・インバート (+)</p> <p>インバート (-)</p> |
|---|---|---|

メモ

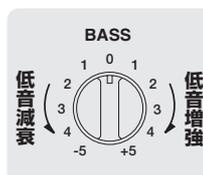
[15]入力セレクター、[3]レコーダーなど全ての入力に対して、それぞれ位相設定が可能です。その設定は入力端子ごとに記憶することができ、「INV」LEDの点灯/消灯で確認することができます。

6 TONE (BASS, TREBLE) — トーンコントロール



- 押して“ON” : 「TONE」LED点灯
- 再び押すと“OFF” : 「TONE」LED消灯

※ “ON” でBASS (低音)/TREBLE (高音) コントロールが有効です。
 ※ “OFF” にするとBASS/TREBLEツマミの位置に関係なく、フラットな特性が得られます。



BASS — 低音コントロール

センター(0)から右にまわすと低音増強、左にまわすと減衰します。

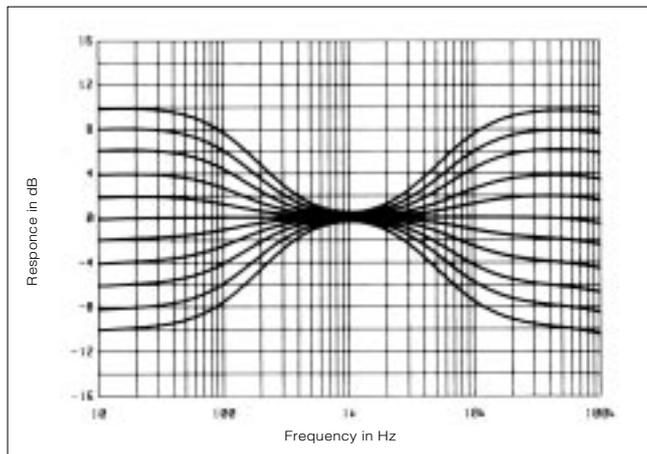
- ターンオーバー周波数 : 300Hz
- 変化量 : 50Hzで±10dB



TREBLE — 高音コントロール

センター(0)から右にまわすと高音増強、左にまわすと減衰します。

- ターンオーバー周波数 : 3kHz
- 変化量 : 20kHzで±10dB



トーン・コントロール特性

メモ

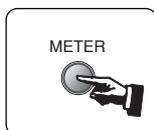
TONEボタンON時、入力時にボリュームやバランス・ノブを回転させるとき、メーターが振れる場合がありますが、回路の異常ではありません。

7 BALANCE — バランス調整

左右の音量バランスを調整することができます。

- 通常はセンター(0)で使用します。

8 DISPLAY : METER — メーター表示ON/OFFボタン



16 メーターの作動と照明をON/OFFすることができます。

- 押してOFF : メーターの作動停止、照明ランプ消灯
- 再び押してON : メーター作動、照明ランプ点灯

9 DISPLAY : VOLUME — ボリューム・レベル表示ON/OFFボタン

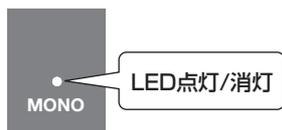
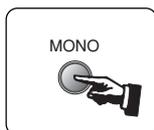


ディスプレイ部中央のボリューム・レベル表示をON/OFFすることができます。

- 押してOFF : ボリューム・レベル表示OFF (OFF時、ボリュームを回すと4秒間レベルを表示します)
- 再び押してON : ボリューム・レベル表示ON

10 MONO — モノ/ステレオ切替ボタン

モノフォニックとステレオの切替ボタンです。モノフォニックでは、左右チャンネルの信号がミックスされ、スピーカーの中央で聴くと音像はセンターに定位します。



- 押して“MONO”(モノフォニック) : 「MONO」LED点灯
- 再び押すとステレオ再生 : 「MONO」LED消灯

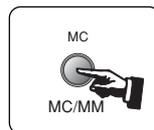
注意

「PLAY OFF」時、「RECORDER ON」ボタンをONに切り替えると、モノフォニックは自動的に解除されます。モノフォニックで録音するには、ON(LED点灯)に切り替えたあと改めてMONOボタンを押して“MONO”にしてください。

11 MC/MM — MC/MM切替ボタン

この機能は、「アナログ・ディスク入力ボードAD-20」が増設されているときに有効です。

AD-20でイコライザー・アンプ(アナログ・ディスクを再生するときに必要なアンプ回路)のゲインを切り替えます。



- 押してMC : 「MC」LED点灯
- 再び押してMM : 「MC」LED消灯

MC

出力電圧が低いMC(ムービング・コイル)型カートリッジを使用する場合のポジション。MCの場合、入力インピーダンスはボード上にあるディップ・スイッチで設定してください。

MM

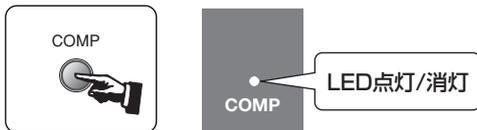
出力電圧が高いMM(ムービング・マグネット)型カートリッジを使用する場合のポジション。入力インピーダンスは47kΩ固定です。

注意

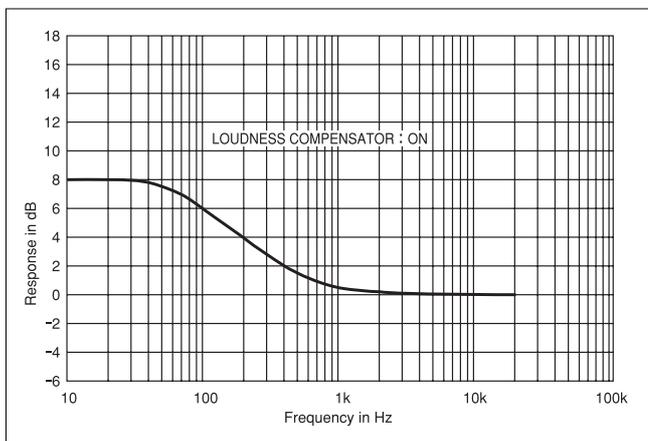
- 本体のMC/MM切り替えは、15 入力セレクターのAD-20を増設したオプション(スロット)ポジションで行います。
- MC/MMの切り替えは、本体 11 MC/MM切替ボタンが優先します。AD-20ボード上にMC/MM切り替え用ディップ・スイッチがありますが、ボード上の設定は無視されます。
- 「MC LOAD」とFILTER設定は、ボード上のみでの設定となり、本体での切り替えはできません。(21ページ参照)
- 本機は「アナログ・ディスク入力ボードAD-9またはAD-10」も使用できますが、この場合のMC/MM切り替えはボード上のみでの設定となり、本体のMC/MM切替機能は動作しません。

12 COMP — コンペンセーター(聴感補正)ON/OFFボタン

小音量で聴く場合の聴感上のエネルギー・バランスを調整するスイッチです。人間の聴感特性は、そのときの音量によって低音や高音が不足してきます。この量感を補うために、本機は低音100Hzを+6dB上昇させることができます。



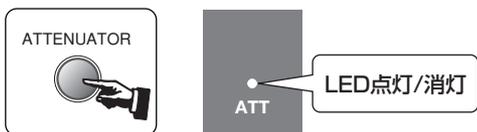
- 押して“ON” : 「COMP」LED点灯
- 再び押すと“OFF” : 「COMP」LED消灯



コンペンセーター特性

13 ATTENUATOR — アッテネーターON/OFFボタン

ATTボタンを押すと、瞬時に現在の音量から「 $\frac{1}{10}$ の音量」に下げることができます。(減衰量：-20dB)



- 押してON : 「ATT」LED点灯
- 再び押すとOFF : 「ATT」LED消灯

14 PHONES — ヘッドフォン出力ジャック

ヘッドフォンのプラグをこのジャックに差し込んでください。

※ヘッドフォンだけで聴く場合には、SPEAKER切替ボタンのA, B両方をOFF(LED消灯)にします。

※音量調整はメインボリュームを使用します。

※インピーダンス8～100Ωのヘッドフォンをご使用ください。

注意

本機は専用ヘッドフォン・アンプが内蔵されています。従って、本機のヘッドフォン端子には、常に本機のプリアンプ側の信号が出力されます。「EXT PRE」ボタンをONにしてプリ/パワー部を分離して使用する場合も同様です。

15 INPUT SELECTOR — 入力セレクター

リアパネルの各入力端子を選択しLEDの点灯で表示します。リモート・コマンダーRC-200でも同様に切り替えることができます。

TUNER, CD, LINE 1, 2, 3

一般的なアンバランス方式で、リアパネルの各入力端子へ接続した機器を選択します。

CD-BAL, LINE-BAL

リアパネルの入力端子へ、バランス方式で入力した機器を選択します。

OPTION 1, 2

リアパネルのオプション・スロットに増設した入力端子を選択します。

- オプション・ボードは22ページ参照

※「INPUT SELECTOR」ノブは指標がなく、エンドレス(ストップパーのない)のロータリースイッチを使用しています。

16 ピーク指示型パワーメーター

メータースケールは、出力レベルをdB(デシベル)と%で表示しています。8Ωの出力を基準にして4Ωで2倍、16Ωの時は1/2の値が出力になり、正弦波の場合には下記の様な出力値になります。

出力表示 (dB/%)	1Ω 負荷	2Ω 負荷	4Ω 負荷	8Ω 負荷	16Ω 負荷
0dB: 100%	—	120W	60W	30W	15W
-10dB: 10%	24W	12W	6W	3W	1.5W
-20dB: 1%	2.4W	1.2W	600mW	300mW	150mW
-30dB: 0.1%	240mW	120mW	60mW	30mW	15mW
-40dB: 0.01%	24mW	12mW	6mW	3mW	1.5mW

このパワーメーターはピークレベル指示型になっていますので、きわめて短時間のうちに振幅や周期が変化している音楽や音声信号のピーク値をメーターが表示するように回路が構成されています。

したがって、瞬時のピーク値を読みとりやすくするためにメーター指針の立ち上がり時間に比べて、帰りの時間が遅くなっています。また、プログラム・ソースにノイズがあったり、パルス性の信号が多く含まれている場合には、聴感上の音量感と多少違った感じになります。

17 リモート・センサー

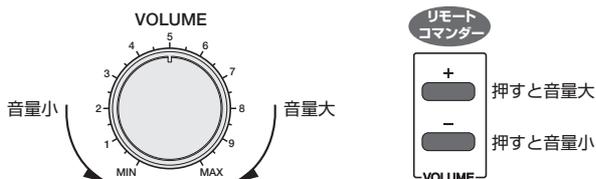
本機に付属しているリモート・コマンダーRC-200の赤外線信号を受信する窓です。リモート・コマンダーを使用するときは、発光部をここに向けてください。

18 ディ스플레이部

各スイッチやボタンの動作ポジションなどを、ディスプレイ部のLED点灯により表示します。
(詳細は5ページを参照)

19 VOLUME — ボリューム調整

右へ回すと音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。リモート・コマンダーRC-200でも同様に動作させることができます。



音量の数値(dB)表示

9] DISPLAY: VOLUME ボタンON時に、19] ボリューム・ノブを回した時、ディスプレイ部にその音量を数値(dB)で表示します。ノブを最大に回した状態(MAX)を基準(0dB)として、音量レベルを最小(MIN)まで表示します。

表示例



メモ

- 「DISPLAY: VOLUME」ボタンOFFの場合、ボリュームを回すと、4秒間レベルを表示後、再び消灯します。
- バランス・ノブを回したりアッテネータ・ボタンをON/OFFしても、表示の数値は変わりません。
- リモート・コマンダーRC-200 (+) (-) ボタンの操作時も同様に表示されます。

20 INPUTS: TUNER, CD, LINE 1, 2, 3 — ライン入力端子(アンバランス)

アンバランス方式の一般的なハイレベル入力端子です。

21 CD/LINE INPUTS(BALANCED) — バランス入力コネクター

バランス方式の一般的なハイレベル入力端子です。

ピンの極性は次のようになっています。

- ①: グラウンド
- ②: インバート(-)
- ③: ノン・インバート(+)

- ②: ノン・インバート(+)) 機器と接続する場合には、5] PHASE ボタンを押して位相を反転します。
- バランス用オーディオ・ケーブルは当社で別売しています。(23ページ参照)

22 RECORDER: REC, PLAY — レコーダー録音/再生端子

レコーダーを接続することができます。

“REC”端子 ⇔ レコーダーの“LINE IN”
“PLAY”端子 ⇔ レコーダーの“LINE OUT”

- REC端子の出力信号は、本機のボリューム、トーン、コンペンセーターなどは関係しません。
- 「PLAY OFF」で、「RECORDER ON」(LED点灯)時、MONO ボタンがONになっていると、REC端子の信号もモノフォニックになります。録音時にはご注意ください。
- RECORDER端子は、DG-48の接続にも使用することができます。(18ページ参照)

23 PRE OUT / POWER IN — プリアンプ出力端子 / パワーアンプ入力端子

PRE OUT

プリアンプ部を使用する時の出力端子

- プリアンプ出力は「EXT PRE」ボタンに関係なく使用できます。
- 他のパワーアンプと接続してバイ・アンプ接続などに利用することができます。
* バイアンプ接続はスピーカーの低音用 / 中・高音用端子をそれぞれ別のパワーアンプで接続する方法です。
(17ページ参照)

POWER IN (EXT PRE IN)

パワーアンプ部を使用する時の入力端子

- 「EXT PRE」ボタンを「ON」にして、プリ部とパワー部を分離した場合のパワーアンプ入力端子です。
パワー部を使用するときの入力切替やボリューム調整などのプリアンプ機能は、接続した外部のプリアンプ側で行ってください。
(15ページ参照)

注意： ケーブルを接続するときは、全ての機器の必ず電源をOFFにする。

24 SPEAKERS : A, B — スピーカー端子

A, B端子に2系統のスピーカー・システムを接続することができます。

- インピーダンス2~16Ωのスピーカーを使用してください。
- 2組のスピーカーを同時に鳴らす場合には、インピーダンス4~16Ωのスピーカーを使用してください。
- バイワイヤリング接続の場合は、A/B端子それぞれから、スピーカーのLOW(低域用)/HIGH(中高域)用端子と接続します。
(16ページ参照)

* 各端子は、ケーブルの接続がスムーズにできる「Yラグ」や「バナナ・プラグ」の挿入が可能です。

25 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。

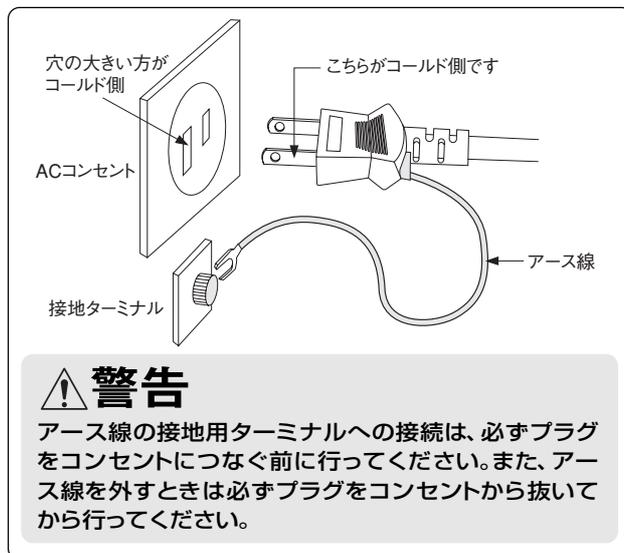


電源は必ずAC100V家庭用コンセントを使用する。

■電源コードに付いているアース線の接続

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全になります。

接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。



■電源コードの極性表示

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

注意

- 室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。
- 大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。
- 本機のSWITCHEDコンセントは、向かって下側がコールド側です。

26 SWITCHED — 電源スイッチと連動するACコンセント

本機と接続する機器の電源をこのコンセントから取ると、電源スイッチをON/OFFすることにより、他の機器の電源も同時にON/OFFすることができます。

注意

接続する機器の消費電力の合計が200Wを超えないようにする。

5. ご使用方法

⚠ 注意

- 各機器を接続する場合には、必ずE-560や各機器の電源を切る。特に「POWER IN」端子にケーブルを抜き差しする場合には、E-560の電源を必ず切る。
- 演奏中に「EXT PRE」ボタンをON/OFFしない。切り替えるときは必ずボリュームを下げる。
- 入力機器のバランス用とアンバランス用ケーブルは、同一システム内で混用しないで、どちらか一方のケーブルを使用してください。同一機器へ同時に接続して使用すると、アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

使用される前にノブ、スイッチやボタンの位置を確認します。

- VOLUME : MIN(左に回しきった)状態
- SPEAKER : スピーカーを接続したポジション
- BALANCE : センター
- EXT PRE, RECORDER, MONO, COMP, TONE, ATTENUATOR } LED消灯

CDプレーヤー(アナログ入力)の演奏

※接続例は6ページ参照

CDプレーヤーのアナログ出力をリアパネルのCD入力端子(またはTUNER、LINE端子)へ接続します。また、CDプレーヤーがバランス出力を装備している場合は、バランス用「CD/LINE INPUTS」端子も使用できます。

演奏の手順

- ① ボリュームが下がっていることを確認し、本機と共にCDプレーヤーの電源を“ON”にします。
- ② 入力セレクターでCDポジション(または入力したポジション)を選択します。
- ③ CDプレーヤーを演奏状態にして、ボリュームを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを調整して再生状態を確認してください。
- ④ MONOボタンを“MONO”(LED点灯)にし、音像が中央に定位することを確認したり、トーン、コンペンセーターなどの効き具合をお試しください。

チューナーで放送を聴く場合

※接続例は6ページ参照

チューナーの出力ケーブルをリアパネルのTUNER入力端子(またはCD、LINE端子)へ接続します。また、チューナーがバランス出力を装備している場合は、バランス用「CD/LINE INPUTS」端子も使用できます。

CD再生と同じ要領で入力セレクターを合わせ、他のスイッチ類のポジションを確認してください。チューナーが放送局に同調していれば、ボリュームを上げると放送が聴こえます。

レコーダーで録音・再生をする場合

接 続 ※接続例は6ページ参照

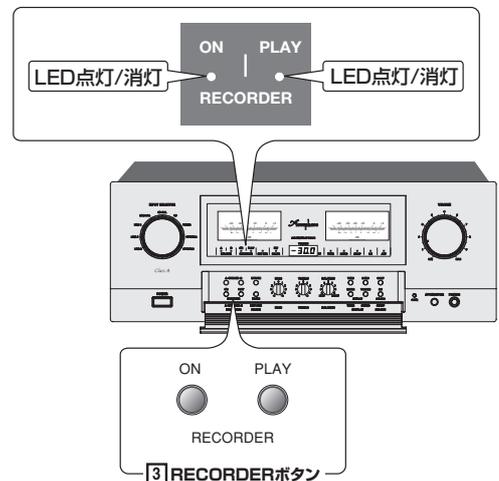
リアパネルのRECORDER端子にレコーダーを接続します。

REC 端子 ⇔ レコーダーの「LINE IN」端子
PLAY 端子 ⇔ レコーダーの「LINE OUT」端子

※レコーダーを再生だけに使用する場合は、PLAY端子の代わりに各LINE入力端子を使うことができます。また、LINE端子が足りない場合は、PLAY端子を使うことができます。

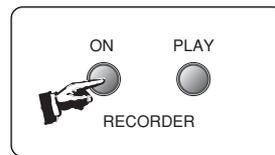
操 作

※**3** RECORDERボタン各ポジションの説明は、7ページ参照。



録音:レコーディング

- 録音するプログラム・ソースを入力セクターで選択し、スピーカーから音を出して確認します。
- 3** 「RECORDER ON」ボタンを押します。(「ON」LED点灯) 入力セクターで選択した信号がREC端子から出力されます。
- レコーダーの録音をスタートすれば、スピーカーから出ている音が録音されます。
- 本機のボリューム、アッテネーター、トーン、コンペンセーター、バランス等は、録音される音には関係しませんので音量を下げて録音することができます。録音レベルは、レコーダー側で調整してください。なお、「PLAY OFF」時、MONOボタンを「MONO」(LED点灯)にすると、録音出力もモノフォニックになりますので注意してください。
- 3** 「RECORDER PLAY」ボタンを押すと、録音を続けながら、録音されたテープのモニターができます。(3ヘッド・テープレコーダーの場合)。



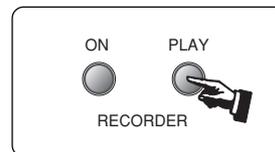
ONを押して**録音**
「ON」LED点灯

注意

MONOボタンが「MONO」(LED点灯)になっていると、録音出力もモノフォニックになります。

再生:プレイバック

レコーダーの再生は、**3** 「RECORDER PLAY」ボタンを押して(「PLAY」LED点灯)、レコーダーを再生状態にします。



PLAYを押して**再生**
「PLAY」LED点灯

電源 OFF時のチューナー録音

電源OFFの場合には、リアパネルのTUNER端子に接続されている信号が、「RECORDER REC」端子に出力されます。入力セクターやRECORDERボタンに関係ありませんから、チューナーなどをタイマーで留守録音するときには、本機の電源を入れなくても録音が可能になります。

注意 『電源OFF時』での録音中に、E-560の電源を入れしないでください。あらかじめ入力ポジションを「TUNER」にしていない場合、録音中に電源を入れると、録音が途切れてしまいます。録音中に電源を入れるときは十分注意してください。

外部プリアンプによる演奏

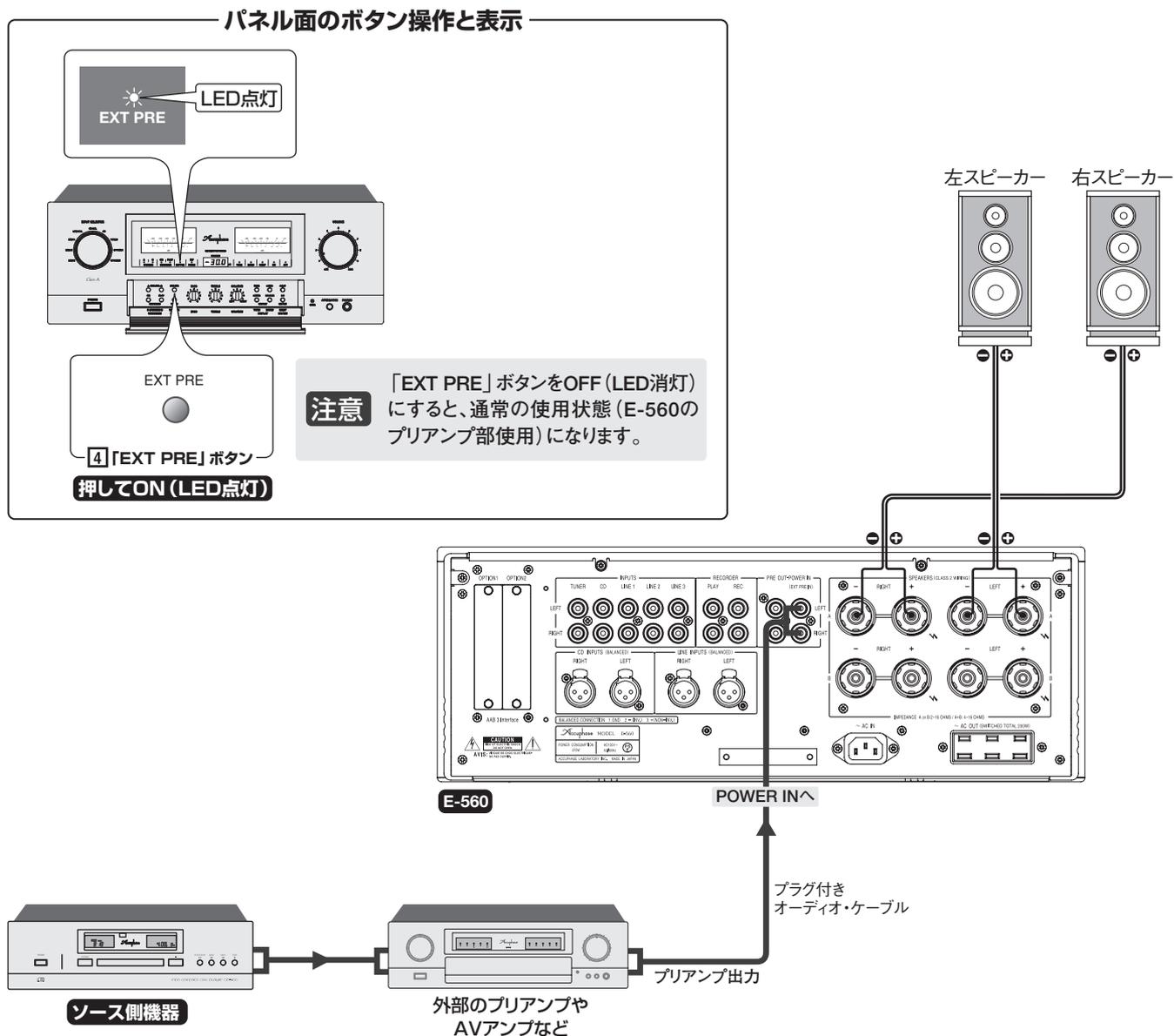
「EXT PRE」スイッチでプリ/パワー部を分離、外部のプリアンプやAVアンプなどを入力して、パワーアンプ部を活用する接続例です。

⚠ 注意

- 接続するときは必ず各機器の電源を切る。
- 大きな音が出る場合がありますので、スイッチを切り替えるときは必ずボリュームを下げる。

接続例 4 「EXT PRE」ボタンを押して、外部のプリアンプ出力を「POWER IN」端子に入力します。

- E-560のパワーアンプ部のみを使用して、プリアンプ部は使用しません。
ボリュームや入力セレクトターなど、プリアンプの機能は全て外部プリアンプ側で操作します。



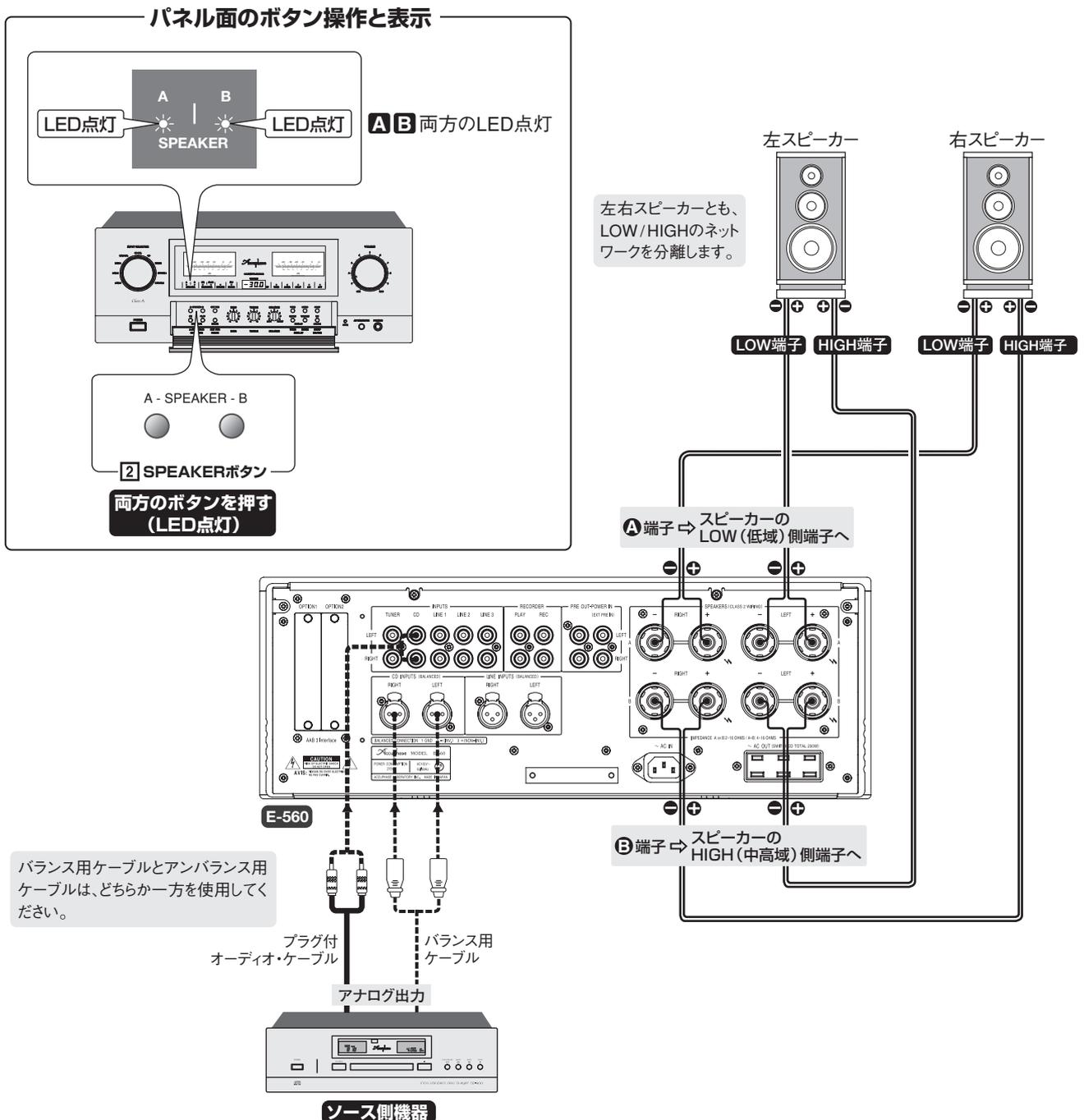
バイワイヤリング方式の接続例

バイワイヤリング方式は、LOW (低域) 側とHIGH (中高域) 側のスピーカーを、別々のスピーカーケーブルで接続します。低域と中高域のケーブルを分けることにより、LOW/HIGHの相互干渉を減らし、スピーカーの表現力をアップすることができます。

注意 接続するときは必ず各機器の電源を切る。

接続例 ② スピーカー出力切替ボタンのAとBを両方押して、スピーカーA/B両端子から出力します。

- ネットワークを内蔵し、端子がLOW/HIGH分離可能なスピーカーが必要です。

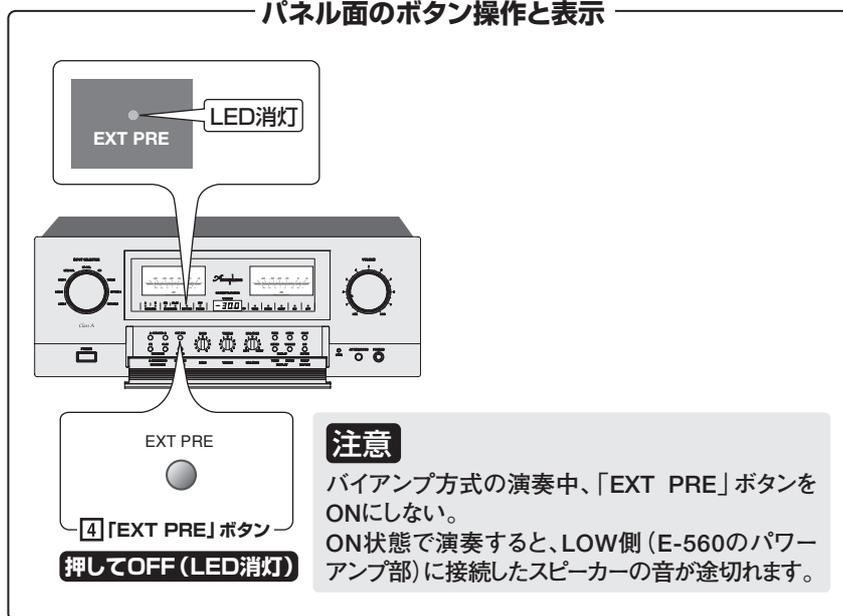


バイアンプ方式の接続例

バイアンプ方式は、LOW(低域)側とHIGH(中高域)側のスピーカーを別々のアンプで駆動し高音質の演奏を楽しむことができます。

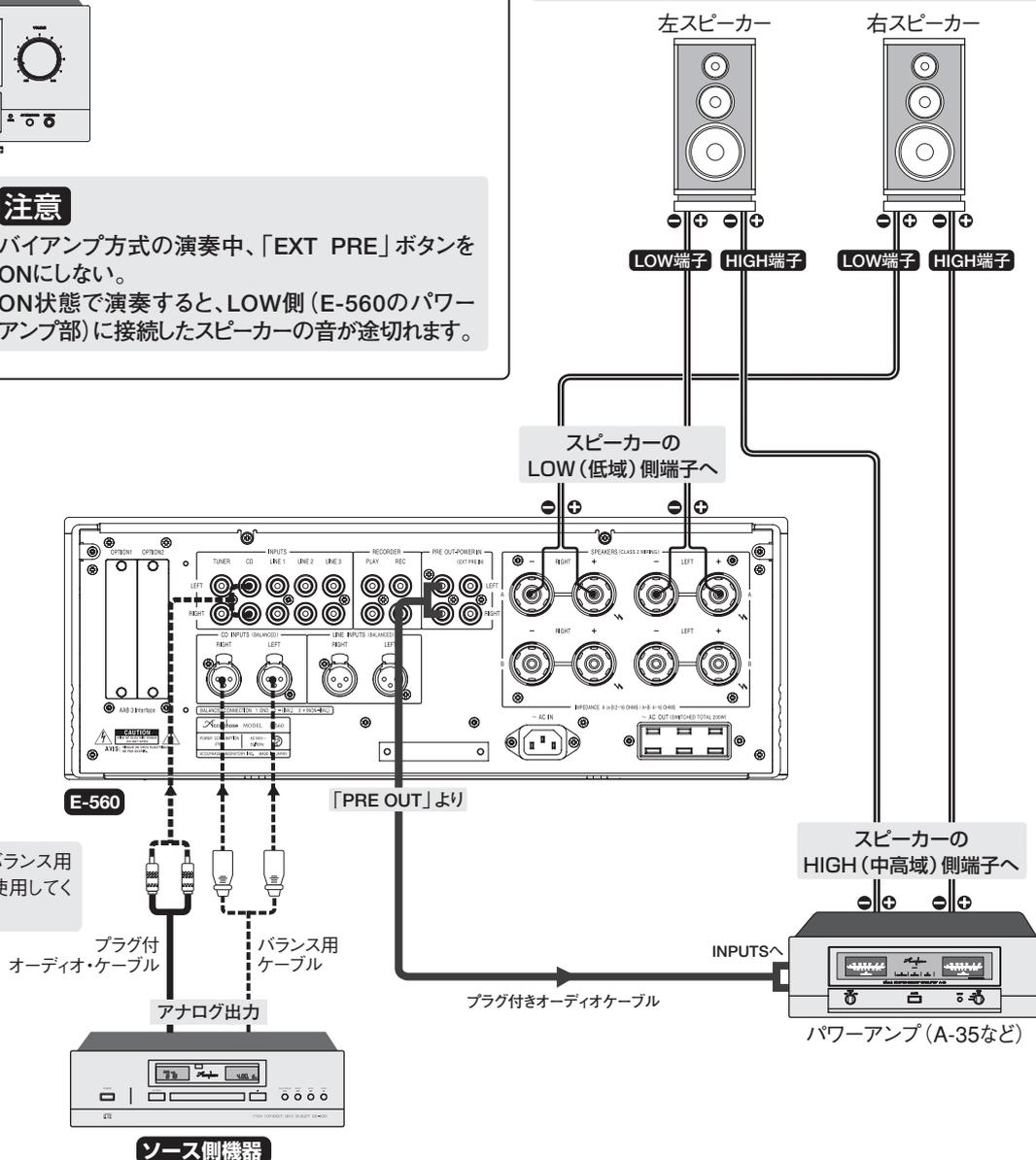
- ネットワークを内蔵し、端子がLOW/HIGH分離可能なスピーカーが必要です。
 - スピーカーに、E-560のパワーアンプ部と別のパワーアンプ1台を使用した接続例です。
 - ゲインが同じパワーアンプを使用してください。
アキュフェーズのパワーアンプは、全て同一ゲイン(28dB)です。
- ※「PRE OUT」端子には、ソース側機器の信号を常時出力しています。

パネル面のボタン操作と表示



イラストの接続例

- E-560のスピーカー端子
⇔ スピーカーのLOW(低域)側端子
- 他のパワーアンプ
⇔ スピーカーのHIGH(中高域)側端子



DG-48を接続して演奏

E-560にデジタル・ヴォイシング・イコライザー DG-48を接続して、音場補正をした演奏が可能です。

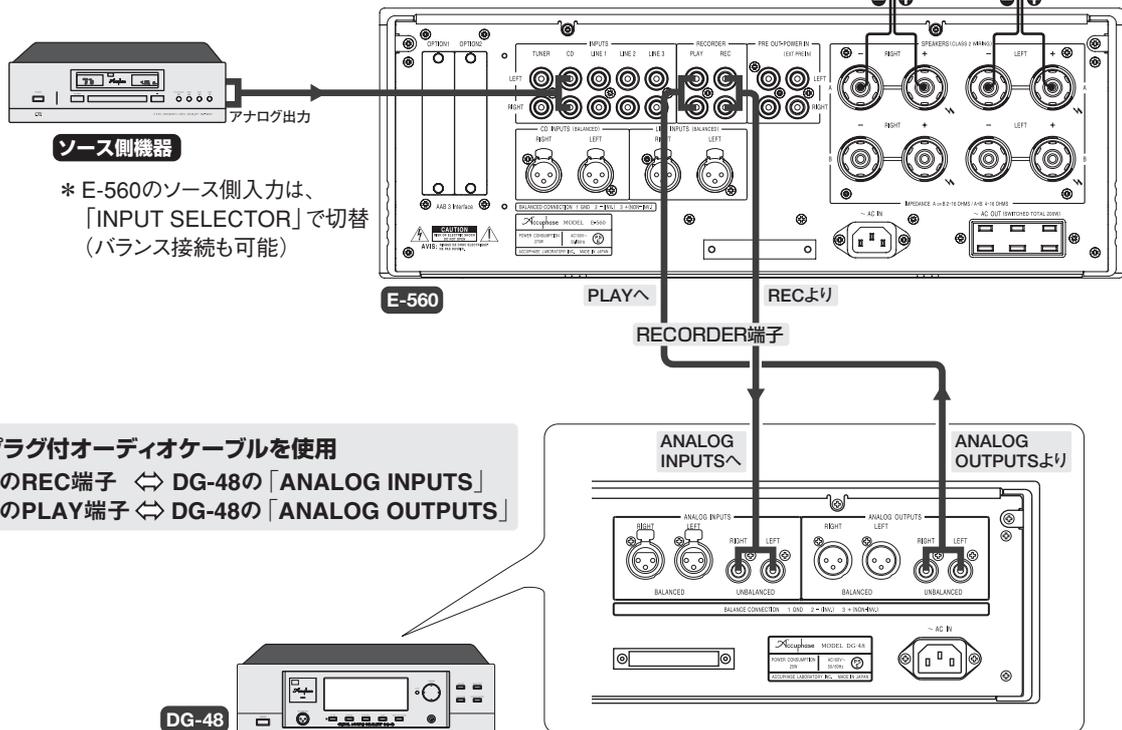
- 詳しい動作・接続方法は、DG-48の取扱説明書を参照してください。

注意 接続するときは必ず各機器の電源を切る。

接続例1 E-560のRECORDER端子にDG-48を接続します。

- ③ RECORDER「ON」「PLAY」両方のボタンを押すと、DG-48が挿入されます。

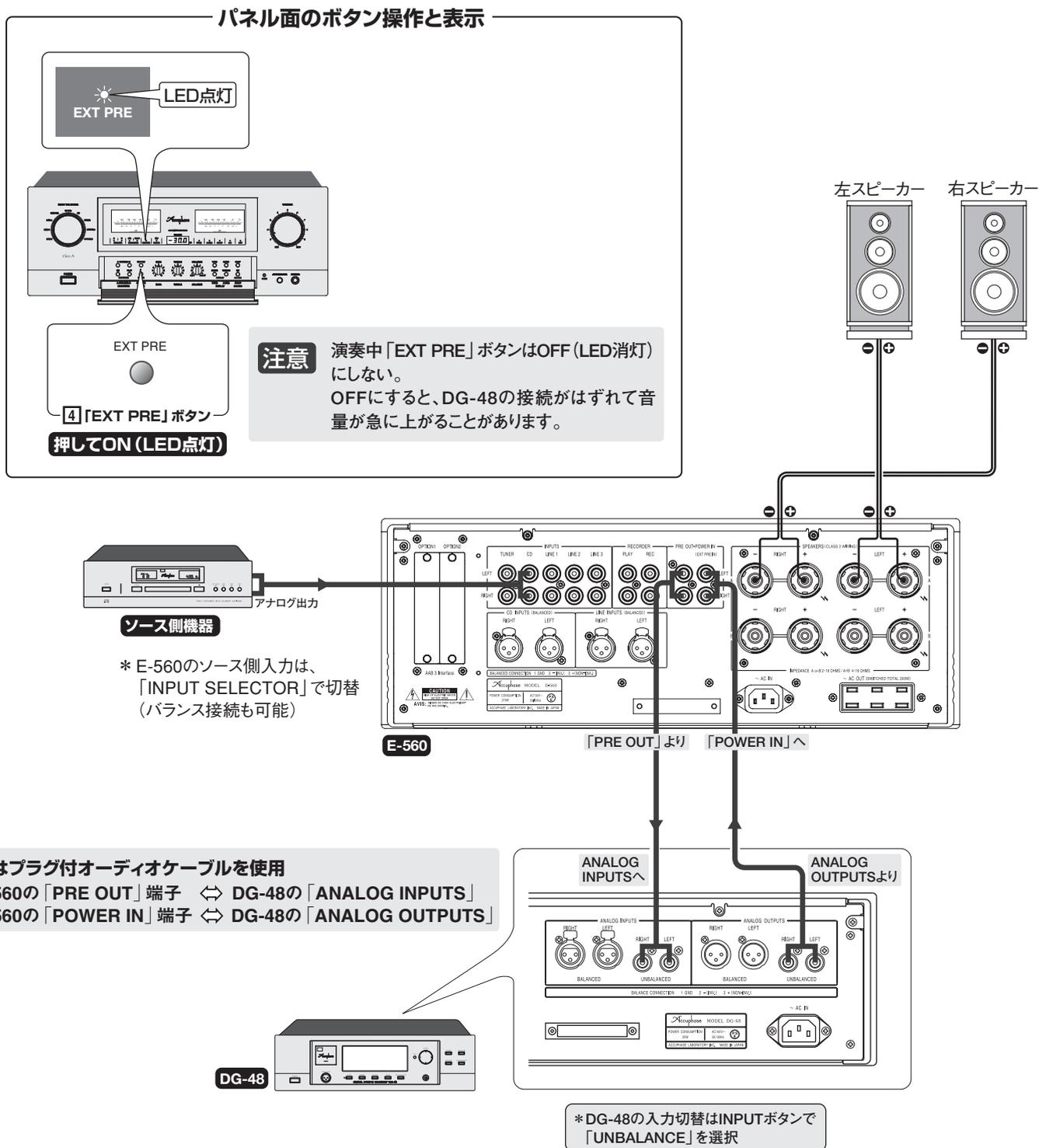
パネル面のボタン操作と表示



接続はプラグ付オーディオケーブルを使用
E-560のREC端子 ↔ DG-48の「ANALOG INPUTS」
E-560のPLAY端子 ↔ DG-48の「ANALOG OUTPUTS」

* DG-48の入力切替はINPUTボタンで「UNBALANCE」を選択

接続例2 DG-48をプリアンプ部とパワーアンプ部の間に接続し、E-560の
4「EXT PRE」ボタンをONにしてプリ/パワー部を分離します。



6. オプション・ボード

E-560には、デジタル入力ボードDAC-20、アナログ・ディスク入力ボードAD-20、ライン入力ボードLINE-10の3種類が用意されています。用途に応じて、リアパネルのオプション用スロット(OPTION 1または2)に増設してください。

注意

- オプションを抜き差しするときは、必ず本機の電源を切る。
- 2個のスロットに、任意のオプション・ボードを2枚まで増設することができます。同一ボード2枚の増設も可能です。
- アナログ・ディスク入力ボードAD-9/AD-10、ライン入力ボードLINE-9もE-560に使用できます。ただし、AD-9/AD-10を使用する場合、E-560のMC/MM切り替えボタンは動作しません。MC/MMの切り替えはそれぞれのボード上でいきます。(AD-9/AD-10の取扱説明書を参照してください。)

オプション・ボードの使用方法

DAC-20 : CDなどをデジタル入力で演奏

※接続例は6ページ参照

オプションの、デジタル入力ボード : DAC-20を増設します。

※ CDプレーヤー、MDなどのデジタル出力(サンプリング周波数96kHzまでの音楽信号)を、同軸または光ファイバーで接続して演奏します。

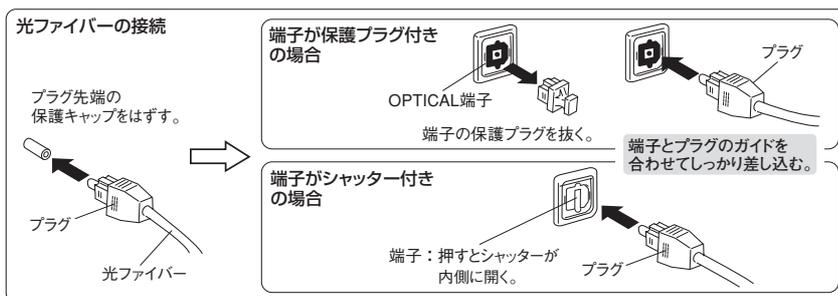
接続ケーブル

COAXIAL 端子

同軸デジタル・ケーブルで接続してください。

OPTICAL 端子

JEITA規格の光ファイバー接続用端子です。



演奏の手順

- ① ボリュームが下がっていることを確認し、本機や関連機器の電源スイッチを入れます。入力セレクターで、DAC-20を増設したスロット(OPTION 1または2)を選択します。
- ② 入力機器を演奏状態にして、ボリュームを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを操作して再生状態を確認してください。

注意

- 入力機器のCOAXIAL(同軸)出力端子とアナログ出力端子(バランス/アンバランス共)から、本機へ同時に入力しない。同一機種同士で同時に接続して使用すると、アースがループになって、ハムやノイズが発生する原因となります。
- 入力機器から本機(DAC-20)の「COAXIALとOPTICALの両端子」に入力した場合は、どちらか一方の入力信号を選択します。入力の選択は、演奏しない入力ケーブルを外すか、演奏しない入力機器の電源を切ってください。

AD-20 : アナログ・ディスク(AD)の演奏

- オプションの、アナログ・ディスク入力ボードAD-20を増設します。
- レコード・プレーヤーの出力ケーブルを入力端子へ正しく接続してください。プレーヤーの出力ケーブルと一緒に出てくるアース線はGND(グラウンド)端子へ接続します。 ※接続例は6ページ参照

注意

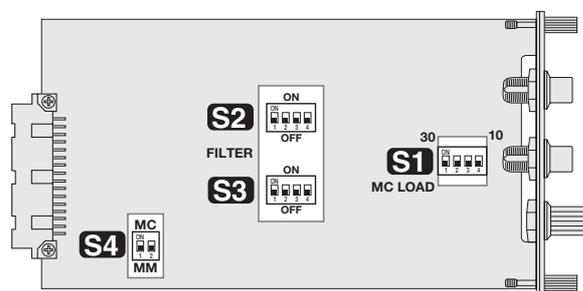
- オプション・ボードを抜き差しするときは、必ず本機の電源を切る。
- AD-9/AD-10を増設する場合、設定内容は同じですが、ディップ・スイッチの数や位置、また設定方法が異なりますので、必ずAD-9/AD-10の取扱説明書を参照してください。
- また、AD-9/AD-10を増設した場合、本体の[11]MC/MM切替ボタンは動作しません。

挿入前に、ボード上にあるディップ・スイッチ(S1~S3)の設定をします。

注意 スイッチの各キーは、先の細いもので完全にセットしてください。指定以外の設定では所定の特性が得られません。

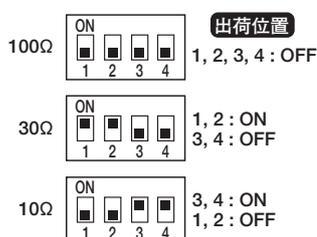
- ① S1 : MC LOAD
MCの場合入カインピーダンスの選択 : 10/30/100Ω
- ② S2, S3 : FILTER
サブソニック・フィルターのON/OFF
- ③ S4 : MC/MMの設定

メモ E-560は、パネル面[11]MC/MM切替ボタンの切り替えが優先されるため、ボード上のS4の設定は必要ありません。



AD-20 部品面 (S1~S4のスイッチ位置を示す。)

① S1 : MC LOAD—MCの入カインピーダンスの選択…ボード上で設定



一般的には、MCカートリッジの内部インピーダンスが
 〔 20Ω以上 : 100Ωに設定
 〔 20Ω以下 : 30Ωまたは10Ωに設定

- カートリッジの内部インピーダンスの2~3倍以上を目安にしますが、実際に試聴して良い音質の得られるインピーダンスを決定してください。
- S1は左右チャンネル同時に設定されます。

② S2, S3 : FILTER—サブソニック・フィルターのON/OFF…ボード上で設定



このフィルターは、超低域25Hz以下を-12dB/octaveという急峻な特性でカットし、超低域ノイズが可聴帯域内へ悪影響をおよぼすことを防ぎます。レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動によりウーファーがゆれたりするときに変有効です。

- S2, S3の両スイッチとも必ず同じ設定にしてください。

③ S4 : MC/MM—イコライザーゲインの切替…パネル面[11]MC/MMボタンの切り替えが優先



MM: 高出力電圧のMM型カートリッジ

- 〔 ゲイン : 36dB
- 〔 入カインピーダンス : 47kΩ

MC: 出力電圧が低いMC型カートリッジ

- 〔 ゲイン : 62dB
- 〔 入カインピーダンス : S1で切り替え

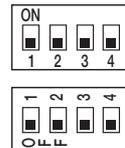
- S4は左右チャンネル同時に設定されます。

メモ AD-20をE-560に増設して使用する場合には、S4ディップ・スイッチの設定は必要ありません。

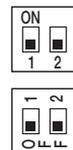
注意

使用しているディップ・スイッチは、下記のように印刷表示の異なる2つのタイプがありますが、ON/OFFの機能は同じです。

● スイッチ:S1,S2,S3



● スイッチ:S4



演奏の手順

- ① ボリュームが下がっていることを確認し、本機や関連機器の電源スイッチを入れます。入力セクターで、AD-20を増設したスロット(OPTION 1 または 2)を選択します。
- ② レコード針をレコード面におろし、ボリュームを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを操作して再生状態を確認します。
- ③ レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動でスピーカーの振動板がゆれたりする場合は、サブソニック・フィルターをONに設定すると、振動板のゆれを軽減することができます。

オプション・ボードの種類

ライン入力ボード LINE-10

希望小売価格 8,000円(税込 8,400円)

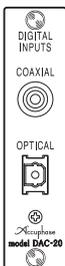


本体のINPUTSと同じ、アンバランス方式の一般的なハイレベル入力端子です。CDプレーヤー、チューナーなどアナログ信号の入力端子として使用します。

※LINE-9も使用できますが、ピンジャックの形状と間隔などが異なります。

デジタル入力ボード DAC-20

希望小売価格 60,000円(税込 63,000円)



同軸、光ファイバーの入力端子を装備しています。デジタル機器のデジタル音楽信号を入力することができます

二つの入力の選択は、いずれかの入力を外すか、または演奏しない機器の電源を切ります。

接続ケーブル

- COAXIAL : 同軸デジタル・ケーブルで接続
- OPTICAL : 光ファイバーで接続

保証特性、適合規格

- 入力フォーマット : JEITA CP-1201/AES-3に準拠
- サンプリング周波数 : 32kHz~96kHz
- デジタル入力 : COAXIAL 0.5Vp-p 75Ω
- OPTICAL -27~-15dBm

アナログ・ディスク入力ボード AD-20

希望小売価格 60,000円(税込 63,000円)



アナログ・レコードを再生します。高性能ハイゲイン・イコライザーを搭載していますから、いろいろな種類のカートリッジに対応することができます。

LEFT, RIGHT-アナログ・プレーヤー入力端子

この入力端子には、アナログディスク・プレーヤーの出力ケーブルを接続します。

GND-アース端子

アナログ・プレーヤーの出力ケーブルと一緒に出てくるアース線を接続します。

オプション・ボードの取り付け方法

- ① E-560の電源を切ります。
- ② リアパネルのオプション用スロットのサブパネルを外します。(図1 参照)
※外したサブパネルは保管しておいてください。
- ③ オプション用スロットの上下のガイドレールに沿って、オプション・ボードを挿入(図2 参照)します。コネクタに当たって止まったら、少し力を入れてコネクタを完全に差し込みます。(パネル面が同一になればOKです。)
- ④ 上下のネジ2カ所で確実に固定します。

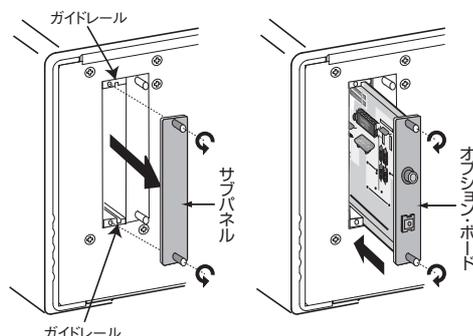


図1

図2

*挿入のイラスト図は、DAC-20を示します。

⚠ 注意

- オプションを抜き差しするときは、必ずE-560の電源を切る。電源を入れたまま抜き差しすると、故障の原因となります。
- サブパネルを外したとき、スロット内部に手などを入れない。(スロット内部に、オプション・ボード以外は入れないでください。)
- 部品面やハンダ面、コネクタの接点部分を手で触らない。手で触ると接触不良や回路が故障する原因となることがあります。ボードを持つ場合にはプリント板の外周やパネル部を持ってください。
- オプションの取り付けネジは手で完全に締める。締めつけが不完全ですと、端子がグラウンドから浮いて接触不良となり、故障の原因となることがあります。

7. オーディオ・ケーブル(オプション)

オプションとして、アナログ用のアンバランス(フォノプラグ付)とバランス(XLRコネクタ付)接続用「オーディオ・ケーブル」を用意しています。

※各ケーブル、特注扱いで5m, 7.5m, 10mも用意しています。

■OFCシリーズ：無酸素銅(OFC)撚線

型番	ケーブル長	プラグ	希望小売価格
AL-10	1.0m (2本)	フォノプラグ	10,000円 (税込 10,500円)
AL-15	1.5m (2本)	フォノプラグ	13,000円 (税込 13,650円)
AL-30	3.0m (2本)	フォノプラグ	16,000円 (税込 16,800円)
ALC-10	1.0m (2本)	XLRコネクタ	15,000円 (税込 15,750円)
ALC-15	1.5m (2本)	XLRコネクタ	18,000円 (税込 18,900円)
ALC-30	3.0m (2本)	XLRコネクタ	22,000円 (税込 23,100円)

■SRシリーズ：高純度(7N)銅線などによる8芯マルチハイブリッド導体構造

型番	ケーブル長	プラグ	希望小売価格
ASL-10	1.0m (2本)	フォノプラグ	25,000円 (税込 26,250円)
ASL-15	1.5m (2本)	フォノプラグ	35,000円 (税込 36,750円)
ASL-30	3.0m (2本)	フォノプラグ	65,000円 (税込 68,250円)
ASLC-10	1.0m (2本)	XLRコネクタ	35,000円 (税込 36,750円)
ASLC-15	1.5m (2本)	XLRコネクタ	45,000円 (税込 47,250円)
ASLC-30	3.0m (2本)	XLRコネクタ	75,000円 (税込 78,750円)

8. リモート・コントロール

使用法

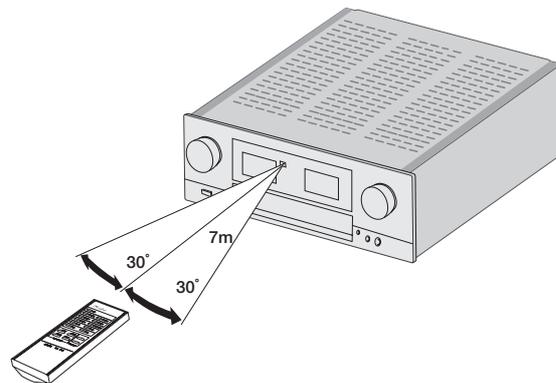
リモート・コマンドの発光部を本体の [17] リモート・センサーに向けて、
図の範囲内でお使いください。

電池について

■電池の交換時期

電池は普通に使って約8カ月は動作しますが、操作距離が短くなってきたら交換時期です。完全に消耗しますと、ボタンを押してもコントロールできなくなります。

- 使用する電池は、単4形を2個、両方とも新しい電池に交換してください。
- 電池を廃棄するときは、地域の環境保全にご注意ください。



警告

乾電池は充電しない。電池の破裂や、液漏れにより、火災やけがの原因となります。

注意

■電池について

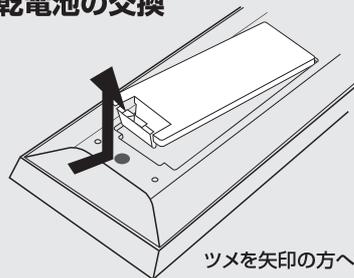
- 乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。
- 電池の向きはコマンドのケースに示されている通り、 \oplus （プラス）、 \ominus （マイナス）を正しく合わせる。
- 新しい電池と、1度使用したものを混ぜない。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。同じ形状でも、性能の異なるものがあります。
- 長時間にわたりコマンドを使わないときは、電池を抜いておく。
- 万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。漏れた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

■テレビやインバーター照明等の近くに設置した場合、リモコンの動作が不安定になることがあります。故障ではありません。置く向きを変えたり、お互いに離してお使いください。

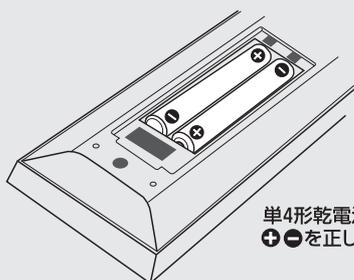
■リモコンを落としたり、内部に液体をこぼしたりしないようにしてください。

■直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。

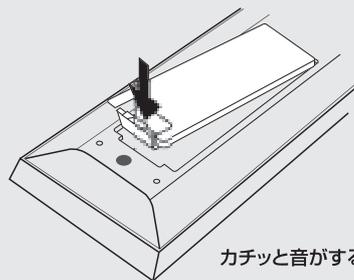
乾電池の交換



ツメを矢印の方へ押し蓋を開ける。



単4形乾電池2個、 \oplus \ominus を正しく入れる。



カチッと音がするまで閉める。

9. 保証特性

[保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる]

定格連続平均出力(両チャンネル同時動作 20~20,000Hz間)

150W/ch	1Ω負荷(※1)
120W/ch	2Ω負荷
60W/ch	4Ω負荷
30W/ch	8Ω負荷

注意:(※1)印1Ω負荷の出力は音楽信号に限る

全高調波ひずみ率(両チャンネル同時動作 20~20,000Hz間)

0.05%	2Ω負荷
0.03%	4~16Ω負荷

IMひずみ率 0.01%以下

周波数特性

POWER IN	: 20 ~ 20,000Hz 0 -0.2dB (定格連続平均出力時)
	: 3 ~ 150,000Hz 0 -3.0dB (1W出力時)
HIGH LEVEL INPUT	: 20 ~ 20,000Hz 0 -0.2dB (定格連続平均出力時)

ダンピング・ファクター 200(8Ω負荷 50Hz)

入力感度・入力インピーダンス

入力端子	入力感度		入力インピーダンス
	定格出力時	EIA(1W出力時)	
HIGH LEVEL INPUT	77.7mV	14.2mV	20kΩ
BALANCED INPUT	77.7mV	14.2mV	40kΩ
POWER IN	0.617V	113mV	20kΩ

出力電圧・出力インピーダンス

PRE OUTPUT	: 0.617V 50Ω (定格連続出力時)
------------	---------------------------

ゲイン

HIGH LEVEL INPUT	→ PRE OUTPUT	: 18dB
POWER IN	→ OUTPUT	: 28dB

トーン・コントロール

ターンオーバー周波数および可変範囲		
低音	: 300Hz	±10dB (50Hz)
高音	: 3kHz	±10dB (20kHz)

ラウドネス・コンペンセーター +6dB(100Hz)

アッテネーター -20dB

S/N・入力換算雑音

入力端子	入力ショート(A-補正)		EIA S/N
	定格出力時S/N	入力換算雑音	
HIGH LEVEL INPUT	98dB	-120dBV	93dB
BALANCED INPUT	93dB	-115dBV	93dB
POWER IN	116dB	-120dBV	98dB

パワーメーター 対数圧縮型ピークレベル表示
出力のdB/%表示

負荷インピーダンス 2~16Ω

ステレオ・ヘッドフォン 適合インピーダンス
8~100Ω

電源 AC100V 50/60Hz

消費電力

170W	無入力時
270W	電気用品安全法(※2)
200W	8Ω負荷定格出力時

注意:(※2)

電気用品安全法の消費電力は、その機種最大の最大負荷(E-560は2Ω)で「クリッピング直前出力の1/8」を供給したときの電力値です。

最大外形寸法

幅465mm × 高さ191mm × 奥行426mm

質量 24.0kg

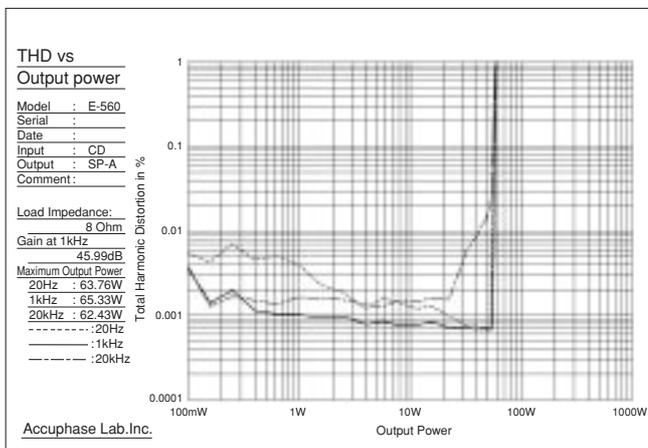
付属リモート・コマンダー RC-200

リモコン方式	: 赤外線パルス方式
電源	: DC3V・乾電池 単4形2個使用
最大外形寸法	: 56mm×175mm×26mm
質量	: 153g(電池含む)

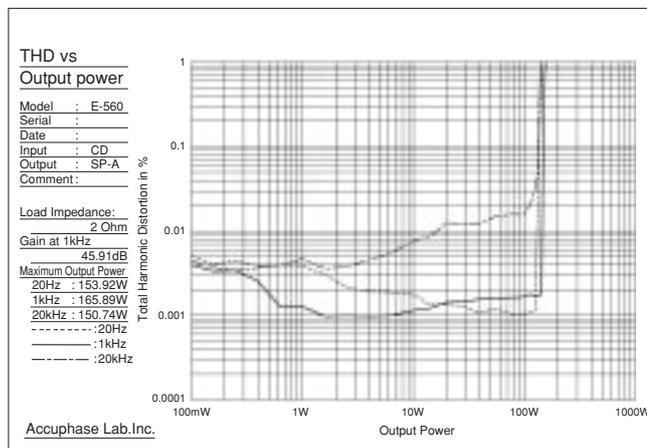
●本機は「JIS C-61000-3-2 適合品」です。

JIS C-61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性—第3-2部: 限度値—高調波電流発生限度値(1相あたりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

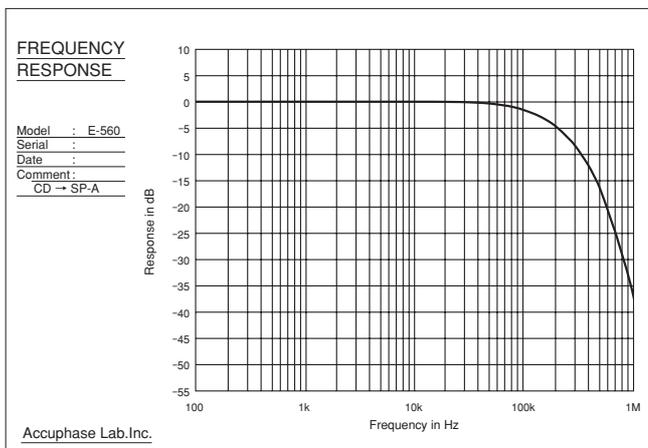
10. 特性グラフ



出力電力／全高調波ひずみ率特性(8Ω負荷時)



出力電力／全高調波ひずみ率特性(2Ω負荷時)



周波数特性(8Ω負荷、ステレオ1W出力時)

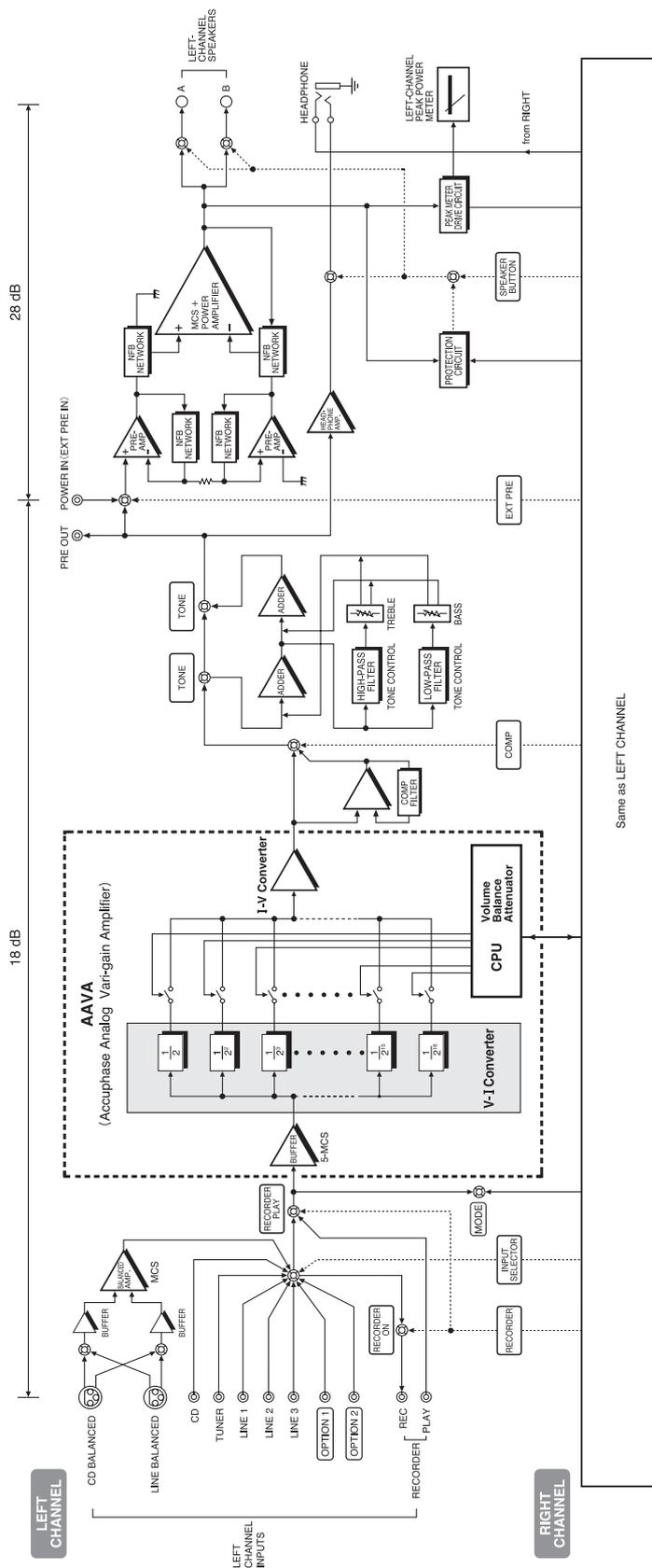
著作権について

放送や録音物(CD、テープなど)から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には、音量に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホーンをご使用になるのも一つの方法です。

11. ブロック・ダイアグラム



12. 故障かな？と思われるときは

故障かな？と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。
これらの処置をしても直らない場合には、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。



注意：接続を変える場合には、必ず各機器の電源を切る。

電源が入らない

- 電源コードが抜けていませんか。

音が出ない

- ソース側機器の電源は入っていますか。
- スピーカー出力切替ボタンを確認します。
……「SPEAKER **A** **B**」両LED消灯の場合、出力はありません。
- 4**「EXT PRE」ボタンのON/OFFを確認します。
…… ON(LED点灯)の場合にはプリ/パワー部分が分離され、「POWER IN」に入力信号がなければ、音が出ません。
- 接続コード、スピーカー・コードは正しく接続されていますか。
- 入力セレクターの位置を確認します。
- レコーダー・ボタンの位置を確認します。

片側のスピーカーから音が出ない

- 接続コード、スピーカー・コードは正しく接続されていますか。
- バランス・コントロールの位置を確認します。
- スピーカー・コードを左右入れ替えます。
〔同じスピーカーから音がでない …… コードとスピーカーをチェックします。
〔左右逆の状態になる …… 本機やソース側機器に原因が考えられます。〕〕
- 次に入力接続コードを左右入れ替えます。
〔同じスピーカーから音がでない …… 本機に原因が考えられます。
〔左右逆の状態になる …… コードやソース側機器に原因が考えられます。〕〕

定位感がはっきりしない

- 本機とスピーカー端子の極性(+)(-)は正しく接続されていますか。

リモート・コマンダーで操作できない

- 電池は入っていますか。
- 電池の極性は⊕(プラス)と⊖(マイナス)が正しく合っていますか。
- 新しい電池に交換してみましょう。
- 受光部付近に障害物はありませんか。
- テレビやインバータ照明等の近くに設置していませんか。お互いに離すか、置く向きを変えてみます。

13. アフターサービスについて

保証書

- 保証書は本体付属の『お客様カード』の登録でお送りいたしますので、当社品質保証部に必ずご返送ください。
- 『お客様カード』の『お客様情報欄』には付属の『目隠しシール』を貼ってご返送ください。
- 保証書の記載内容により、**本機の保証期間はご購入日から5年間です。**
- 『品質保証書』の無い場合は、**全て有償修理となりますので、『お客様カード』は必ずご返送ください。**
- 『お客様カード』をご返送いただく時、ご購入日等を記入して頂きますが、下記の場合には登録(『品質保証書』の発行が)できないことがあります。
 - *ご購入頂いた購入日と弊社からの製品出荷日とが大きく異なる場合。
 - *『お客様カード』が返送されないまま、転売(インターネット等)された場合。
 - *長期間『お客様カード』の返送がない場合。
- オプション類には『お客様カード』を付属していませんが、製品出荷日をご購入日として弊社が登録し、『5年間保証』とさせていただきます。

保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。



注意

保証期間以降、長期に渡って安全にご使用いただくために、当社での定期的な点検を行ってください。内容については当社品質保証部にご相談ください。

その他

- 改造されたものは修理ができない場合がありますのでご了承ください。
- 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
- AC100V以外(海外)では使用できません。
- 保証は日本国内のみ適用されます。**
The Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

- ご質問、ご相談、当社製品取扱店のご案内などは、下記の当社品質保証部へお願いします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
〒225-8508 横浜市青葉区新石川 2-14-10
TEL 045(901)2771(代表)
FAX045(901)8995

- 修理のご相談は、お買い求めの当社製品取扱店へお願いします。
- 当社のホームページ上でも修理の問い合わせが可能です。
<http://www.accuphase.co.jp/>

修理依頼の場合には

- “故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、当社製品取扱店に修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号
- ご購入日、ご購入店
- ご住所、氏名、電話番号
- 故障状況:できるだけ詳しく

※梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。



ACCUPHASE LABORATORY, INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市青葉区新石川2-14-10

〒225-8508 TEL(045)901-2771(代)

<http://www.accuphase.co.jp/>